

## 第54回九州人工透析研究会を振り返って

琉球大学病院 血液浄化療法部 古波蔵健太郎

2022年12月11日（日）に沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターにて第54回九州人工透析研究会（The Kyushu Society for Dialysis Therapy, KSDT）が井関邦敏大会長のもと開催されました。コロナがある程度と落ち着いていたタイミングもあり対面での開催となりました。参加者は九州・沖縄各地から600人を超え、多くの方々と直接話せる素晴らしい機会となりました。

第54回KSDTのテーマは「患者目線の透析医療」でした。井関先生が関わってこられたKidney Disease：Improving Global Outcomes（KDIGO）の診療ガイドラインの根底にあるコンセプトに沿ったプログラムが組まれました。午前中の特別企画「患者さんの声」では透析歴35年の一般社団法人ビーベックの宿野部武志さんと透析歴21年目のかわせみクリニック院長鈴木一之先生（リモート）が講演されました。患者目線でどのように見られているのか、忖度のない意見に私を含め身の引き締まる思いをされた透析施設従事者も少なくなかったと思います。特に鈴木先生のご講演は透析医と透析患者という両者の目線で語られ、とても興味深い内容でした。続いての特別講演では米国から住田圭一先生が腸内環境の面からみた食事療法について大変素晴らしいお話をしてくださりました。

午後の部の特別講演では元KDIGO理事の塚本雄介先生が2022年5月に開催された透析患者の症状に関するKDIGO-Controversies Conferenceの内容について報告されました。また、大会長が長年続けてこられている沖縄透析研究（Okinawa Dialysis Study：OKIDS）データを利用した透析患者の悪性腫瘍、末期腎不全発症の性差の動向、SLEを原疾患とする維持透析患者の生命予後と性差に関する報告が行われました。これらは日本透析医学会の女性研究者の支援・育成事業であるTSUBASAプロジェクトの採択研究です。女性医師の活躍、ダイバーシティ推進を象徴する報告でした。また進行中のオクトパス研究のポストホック解析および50年（1971-2020）におよぶデータベースの作成過程が紹介されました。

特別企画ではコロナ関連でこれまでの取り組み等について振り返りとなる内容で沖縄と福岡での透析COVID-19対策について発表がありました。これらの企画以外にも透析に関わる医師、看護師、医工学技師から一般口演、ポスター発表があったほか、よく解るシリーズ、スポンサードセミナー、ランチョンセミナーなど教育的な内容も数多く、とても実り多い研究会でした。

2023年度の第55回大会は11月26日に大分県別府市で（大会長）大分大学の柴田洋孝先生、（副会長）大分赤十字病院の金田幸司先生のもと開催されます。九州・沖縄各地域において持ち回りで開催される九州人工透析研究会は透析領域の研究や教育にとどまらず、同じ地区の透析施設従事者の交流の場として益々、発展するものと確信しております。

別府でみなさまとお目にかかるのを楽しみにしています。